

保健体育科（体育分野）

単元名 B 器械運動 マット運動

第1学年

1 単元の見積

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。
 - ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかなに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。
- (2) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとするこゝ、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

2 単元の評価規準（○：第1学年の評価規準 ●：第2学年の評価規準 ○●技能は1・2年共通）

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
○器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○よい演技を認めようとしている。 ○分担した役割を果たそうとしている。 ●仲間の学習を援助しようとしている。 ●健康・安全に留意している。	○学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ●課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ○学習した技から、「はじめ—なか—おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見付けている。 ○仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 ●仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。	○●マット運動では、回転系や巧技系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、発展技のいずれかができる。	○器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ○技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ○器械運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

3 指導と評価の計画（10時間）

時	ねらい・学習内容・学習活動	関	思	技	知	評価方法
はじめ 2時間	<ねらい> ○学習のねらいや計画、約束を理解しよう。 ○器械運動の特性や成り立ちを理解しよう。（知①） ○自分やグループの役割を理解し、責任感を持って積極的に取り組もう。（関③） ○関連して高まる体力を理解しよう。（知③） ○主運動へつながる動き作りや、技の予備運動を楽しもう。					

	<p>学習の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通し ・器械運動の特性や成り立ち ・分担した役割を果たす意義と意味 ・マット運動への動き作り ・関連して高まる体力 	
<p>はじめ 2時間</p>	<p>1</p> <p><内容1> 学習のねらい，計画，約束，器械運動の特性や成り立ち等について，事前アンケートの結果や，新体力テストの結果を関連づけ，映像やワークシート等を基に行う。</p> <p>1 活動Ⅰ オリエンテーションを通して，学習の見通しを持ち，器械運動の特性や成り立ちについて理解したことをワークシートにまとめよう。</p> <p>2</p> <p><内容2> ・個とグループでの役割分担を明確にし，責任感を培うと共に，積極的な声かけや動き作りにつなげる。</p> <p>2 活動Ⅱ 自分やグループ等の役割分担を理解し，練習や発表等を円滑に進めるために，積極的に取り組もう。</p> <p>2時間目に「分担した役割を果たそうとする」(関③)ことを指導し，4時間目に評価する。</p> <p>3 活動Ⅲ 動き作りをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人組・・・ゆりかご 補助倒立 ・2人組・・・腕抜き 馬跳びくぐり ・1人・・・条件付き動物走り うさぎ跳び だるま回り 正座から立ち上がり ブリッジ バランス立ち 腕立て伏臥ジャンプ <p><内容3> ・それぞれの種目や，系，技群，グループにより主として高まる体力要素が異なることや器械運動を継続することで筋力や柔軟性，平衡性などが種目や技の動きに関連して高められることを，ワークシートにまとめる。</p> <p>4 活動Ⅳ 関連して高まる体力や，器械運動を継続すると，どのような運動効果があるのかまとめてみよう。</p>	<p>①</p> <p>ワークシート</p> <p>③</p> <p>ワークシート</p>
<p>なか 1 3時間</p>	<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な技の中から，今の自分に「できる技」「できそうな技」を確かめよう。 ○技の分類と基本的な技の名称，運動局面での技術的なポイントを理解しよう。(知②) ○基本的な技の中から，自分にできる技を選び，滑らかな「回り」に取り組もう。(技①) ○基本的な技の中から，自分にできる技を選び，滑らかな「回転」に取り組もう。(技②) ○自他の演技について，「合理的な動き」を見付けよう。(思①) ○学習した技から構成に適した技の組み合わせを見付けよう。(思②) <p>学習の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できる技，できそうな技 ・技の分類と名称，技術的なポイント ・合理的な動きのポイント ・技の構成 ・滑らかな「回り」「回転」 ・お互いの技の出来映えを伝え合う。 	

なか 1 3 時間	4	<p>4時間目に「滑らかな回り」(技①)を指導し、5時間目と6時間目に評価する。</p>				
		<p><内容9> ・基本的な技について、合理的な動き方のポイントを見付けるために、「どうすれば、滑らかな動きにつながるのか」を既習事項である「運動局面のポイント」を整理しながら取り組む。</p> <p><内容10> ・「途切れる動き」と「続ける動き」とを比較する。 ・「グループ」での活動を設定し、お互いの演技についての気づきを伝え合う。 ☆ワークシートを活用し、仲間の演技について、運動局面のポイントをメモをとりながら観察させる。 例) 開始姿勢 着手位置 回転スピード ひざ ひじ 首 演技の大きさ 終末姿勢 等</p> <p>10 活動Ⅲ グループでの活動を通して、基本的な技についての合理的な動き方のポイントを見付けよう。その際、運動観察の視点を大切にし、お互いのよさや気づきを伝え合おう。</p>	①			ワークシート
		<p><内容11> ・4時間目に指導した「滑らかな回り」についての評価をする。 →ワークシート、ICT機器等を使用し、再度ポイントを確認する。</p> <p><内容12> ・基本的な技の「滑らかな回転」について、「技に求められる動きが途切れずに続けてできること」を繰り返しの練習を行う。 →全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方 ☆ビデオ撮影で自己の演技を確かめながら取り組ませる。</p> <p>11 活動Ⅰ 基本的な技の「滑らかな回転」の練習をペアで行い、お互いの演技について、よい動きや気づきを伝え合おう。</p>		①		観察
	5 【本時】	<p>5時間目に「滑らかな回転」(技②)を指導し、6時間目と7時間目に評価する。</p>				
		<p><内容13> ・自己に適した技(できる技)の中から、「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付ける。 ☆組み合わせのポイント:「滑らかな回り・回転・静止」 「合理的な動き」「開始姿勢と終末姿勢」 ☆学習形態:「個人」での構成→「ペア」での練習→「グループ」での観察</p> <p>12 活動Ⅱ 「できる技」を組み合わせ、演技を構成してみよう。また、構成した技をペアで見せ合おう。</p>				

<p>なか 1 3 時 間</p>	<p>5</p>	<p><内容14> ・グループ内のメンバーの演技について、『技に適した構成であるかどうか』について「良い点」「改善点」を伝え合う。その際、「なぜ良いのか」「なぜ改善が必要なのか」について既習事項を基に伝え合うことができるように、ワークシートや映像を根拠に指摘し合う。</p> <p>13 活動Ⅲ 学習した技の中から、構成（はじめーなかーおわり）に適した技の組み合わせを見付けることができるように、ペア・グループで、「よい点」「改善点」「気付き」等を伝え合おう。</p>		<p>②</p>		<p>ワー ク シ ート</p>
<p>なか 2 3 時 間</p>	<p>6</p>	<p><ねらい> ○基本的な技の構成の出来映えを向上させよう。基本的な技の中から、自分のできる技を選び、「条件を変えた技」、滑らかな「静止」に取り組もう。（技③） ○技ができる楽しさや喜びを味わい、よりよくできるように積極的に取り組もう。（関①） ○仲間の演技や技を認め合い、補助や助言、声かけを積極的に行い、意欲的に取り組もう。（関②） ○プレ発表会に向けて、「合理的な動きのポイント」「技の構成」「仲間の演技を向上させるための指摘」を行おう。（関③）</p> <p>学習の重点 ・技の出来映えの向上 ・練習への積極的参加 ・条件を変えた技 ・技能向上のための「補助」「助言」「声かけ」 ・プレ発表に向けて</p> <p><内容15> ※「滑らかな回り」は、2回目の評価 ・4時間目に指導した「滑らかな回り」、5時間目に指導した「滑らかな回転」についての評価をする。→ワークシート、ICT機器等を使用し、再度ポイントを確認する。</p> <p>14 活動Ⅰ 評価の視点を確認し、現在の精一杯の演技を表現しよう。</p> <p><内容16> ・「誰にでも技能向上の可能性があること」味わわせるために積極的に練習することや、具体的な名称と、運動局面での技術的なポイントを伝え、課題解決に向けて努力している姿勢を認め合えるように、ワークシートを用いて指導する。</p> <p>6時間目に「技能向上の可能性」（関①）を指導し、9時間目に評価する。</p> <p>15 活動Ⅱ 「滑らかな静止」や自己の技に対する課題について、意欲的、積極的に繰り返して練習しよう。</p> <p>6時間目に「滑らかな静止」（技③）を指導し、7時間目と8時間目に評価する。</p>		<p>① ②</p>		<p>観 察</p>

なか 2 3 時間	6	<p><内容17></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動意欲の向上」に向けて、課題となる動き方がよりよくできた際に声をかけるなどして、仲間の技や演技を認め合うことで、お互いの運動意欲が高まることを味わわせる。 <p>16 活動Ⅲ 構成した技の反復練習を行う中で、課題克服に向けての努力を認め、よさを伝え合おう。</p> <p>6時間目に「運動意欲の向上」(関②)を指導し、10時間目に評価する。</p>				
	7	<p><内容18> ※「滑らかな回転」は、2回目の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5時間目に指導した「滑らかな回転」、6時間目に指導した「滑らかな静止」についての評価をする。→ワークシート、ICT機器等を使用し、再度ポイントを確認する。 <p>17 活動Ⅰ 評価の視点を確認し、現在の精一杯の演技を表現しよう。</p> <p><内容19></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで構成した技から、他の演技を盛り込み、「できる技」を増長させる。→「条件を変えた技」への挑戦 ☆技の質的変容を追求し、「滑らかさ」を向上させる。 <p>18 活動Ⅰ 現在の技に、さらに「技の滑らかさ」を加えるための練習と、構成した技に変化を付けよう。</p> <p>19 活動Ⅱ <u>各技の『条件を変えた技』へ挑戦しよう。</u></p> <p><内容20></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の演技から「ペア」→「トリオ」→「グループ」での演技構成を試案する。 →お互いの技能・体力の程度に適した構成を考え、取り組む。 ・マットの設置位置 演技の進行方向 BGM等 ☆集団演技に向けての練習 <p>20 活動Ⅱ 集団演技に向けてのグループミーティングを通して、お互いの技能・体力に適した技の構成をしよう。</p>		② ③		観察
	8	<p><内容21> ※「滑らかな静止」は、2回目の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6時間目に指導した「滑らかな静止」についての評価をするため、練習時間を設定し学習形態を「トリオ」とする。 ・評価の視点を明確に提示する →ワークシート、ICT機器等を使用し、再度ポイントを確認する。 <p>21 活動Ⅰ 評価の視点を確認し、現在の精一杯の演技を表現しよう。</p>		③		観察

<p>なか か 2 3 時間</p>	<p><内容 2 2 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技に適した構成，合理的な動きのポイントを見つけ，仲間の動きを観察し，良い演技や改善点を伝え合う。 ・回転系，巧技系の基本的な技を滑らかにする練習に取り組む。 ・基本的な技の組み合わせに変化を持たせながら練習する。 →ワークシート及び I T C 機器等を用いて活動を行う。また，既習事項を整理しながら指摘し合う。 →学習形態をペア，トリオ，グループと変化させ，お互いの演技を指摘し合える場の設定を行い，演技の出来映えを向上させる。 <p>2 2 活動Ⅱ 各メンバー構成によるプレ発表会に向けて，技の出来映えを高めるために，お互いの演技を指摘し合いながら練習をしよう。</p> <p><内容 2 3 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点を明確にし，発表を見て全体でその内容を共有する。 <p>☆明確な視点・・・各メンバー構成で行われた発表のよさ（滑らかさ・構成・一体感・アイデア）をワークシートに記入する。</p> <p>2 3 活動Ⅲ プレ発表会をしよう。</p> <p><内容 2 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングを通して，成果と課題を分析し，本発表への目標設定と動きの確認をする。 <p>2 4 活動Ⅳ 本発表に向けて，グループでのミーティングを通して，目標設定を行おう。</p>					<p>ワー クシ ート</p>
<p>ま と め 2 時間</p>	<p>ねらい：○構成した技（「はじめ-なか-おわり」）を学習の成果として，精一杯の発表と観察をし，仲間の努力を讃えよう。</p> <p>.....</p> <p>学習の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会で精一杯の演技を表現 ・観察の視点の明確化 ・役割分担（発表者，観察者） ・映像による変容の比較と分析 <p>.....</p> <p><内容 2 5 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6時間目に指導した「技能向上の可能性」(関①) についての評価を行う。 <p><内容 2 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの発表会その1を，①個人発表（3種類の構成）→ビデオ撮影での評価，②ペアでの発表（2種類の構成），③グループでの発表（3種類の構成）で行う。また，発表についての観察の視点を明確にし，ワークシートに記入しながら観察する。 <p>2 5 活動Ⅰ まとめ発表会その1で，今の力を最大限発揮しよう。観察の視点である，「よい点」「改善点」をワークシートに記入しながら観察をしよう。</p>	<p>①</p>				<p>観 察 ワ ー ク シ ート</p>

ま と め	9	26 活動Ⅱ ミーティングを通して、発表を終えての感想をシェアしよう。				
	2 時 間	10	<p><内容27></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6時間目に指導した「運動意欲の向上」(関②)についての評価を行う。 ・まとめの発表その2を行い、前時のミーティングの内容を確認しながら、最後の演技に取り組む。 <p>27 活動Ⅱ 最後の演技を精一杯行い、お互いの頑張りを認め合える活動にしよう。</p> <p><内容28></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3時間目に撮影した演技と9時間目に撮影した個人演技の比較 ・ビデオで自己の演技を視聴しながら、技の質的变化、感想等ワークシートに学習のまとめを記入する。 →ワークシートにまとめた内容をグループで交流する。 ・代表者による発表をする。 <p>28 活動Ⅲ 劇的ビフォーアフターShow</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめと事後アンケート・事前アンケートと現在の比較 ・目標設定に対しての到達状況 ・目指す姿への到達状況 ・新体力テストとの関連(筋力・柔軟性・平衡性・巧緻性) 	②		

4 学習活動に即した評価規準(第1学年)

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<p>①技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにすることに積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②課題となる動き方がよりよくできた際に声をかけるなど、繰り返し練習している仲間の努力やよい演技を認めようとしている。</p> <p>③練習などを行う際に、器械・器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとしている。</p>	<p>①学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。</p> <p>②学習した技から、「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付けている。</p> <p>③仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。</p>	<p>①基本的な技(体をマットに順々に接触させて回転するための動き方、回転力を高めるための動き方)の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>②基本的な技(全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方)の一連の動きを滑らかにして回転することができる。</p> <p>③基本的な技(バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方)の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p>	<p>①マット運動の特性や成り立ちについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②マット運動の技は、系、技群、グループの視点によって分類されていることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③器械運動は、それぞれの種目や系、技群、グループにより主として高まる体力要素が異なることについて、言ったり書き出したりしている。</p>

5 具体の指導内容及び学習活動に即した評価規準（第1学年）

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<p>人には誰にでも学習によって技能が向上する可能性があること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにすることに積極的に取り組もうとする。</p> <p>仲間の技や演技を認め合って学習することは、お互いの運動意欲が高まること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②課題となる動き方がよりよくできた際に声をかけるなど、繰り返し練習している仲間の努力やよい演技を認めようとしたり、仲間の学習を援助しようとする。</p> <p>分担した役割を果たすことは、練習や発表を円滑に進めることにつながることや、さらには、社会生活を過ごす上での必要な責任感を育てることにつながること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③練習などを行う際に器械・器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとする。</p>	<p>回転系・巧技系の基本的な技を滑らかにを行うための合理的な動き方を提示する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。</p> <p>技の特性を生かし、技の組み合わせ方や構成の仕方を判断するための資料を提示する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②学習した技から、「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付けている。</p> <p>観察場面を設定し、動きのポイントをワークシート及びICT機器等を通して提示する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。</p>	<p>・接転技群について、「基本的な技」の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①基本的な技(体をマットに順々に接触させて回転するための動き方、回転力を高めるための動き方)の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>・ほん転技群について、「基本的な技」の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②基本的な技(全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方)の一連の動きを滑らかにして回転することができる。</p> <p>・平均立ち技群について、「基本的な技」の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③基本的な技(バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方)の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p>	<p>・器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成されていること。</p> <p>・種目に応じて多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあること。</p> <p>・オリンピック競技大会の種目では、体操競技として行われていること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①マット運動の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>・器械運動の技は、系、技群、グループの視点によって分類されていること。</p> <p>・技には名称が付けられており、それぞれの技の局面で技術的なポイントがあること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②マット運動の技は、系、技群、グループの視点によって分類されていることについて、学習した具体例をあげている。</p>

5 具体の指導内容及び学習活動に即した評価規準（第1学年）

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
			<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動は、それぞれの種目や系、技群、グループにより主として高まる体力要素が異なること。 ・マット運動を継続することで、筋力や柔軟性、平衡性などが技の動きに関連して高められること。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③器械運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げたり、新体力テストとの関連について、言ったり書き出したりしている。</p>

6 本時の展開（5 / 10）

（1）本時の目標

○学習した技から構成（はじめ—なか—おわり）に適した技の組み合わせを見付けることができるようにする。
（運動についての思考・判断）

（2）本時の評価規準

おおむね満足できる状況（B）	十分満足できる状況（A）	努力を要する状況（C） に対する指導の手立て
②学習した技から、「はじめ—なか—おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付けている。	②学習した技から、「はじめ—なか—おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付け、構成した理由について、根拠をあげて説明している。	②「できる技」「できそうな技」からいくつかの技を選択させ、それらの技の組み合わせ方や「構成」について助言する。

7 単元の系統性

小学校学習指導要領解説 体育編 第3節 小学校第5学年及び第6学年の目標及び内容 B 器械運動 マット運動 p64 p68 p69	
（1）技能 （1）ア	・マット運動では、基本的な回転技や倒立技を安定して行うとともに、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。
（2）態度 （2）	・運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
（3）思考・判断 （3）	・自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫できるようにする。

高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 第1節 体育
 B 器械運動 マット運動 高校入学年次 p30 p39 p40

1 技能 (1) ア	・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を滑らかに行うこと、それらを構成し演技すること。
2 態度 (2)	・器械運動に主体的に取り組むとともに、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
3 知識, 思考・判断(3)	・技の名称や行い方, 体力の高め方, 課題解決の方法, 発表の仕方などを理解し, 自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

8 学習の展開

	学習内容・学習活動 【学習形態】	指導上の 留意点	評価規準 (評価方法)
導入	1 共通メニューをする。【全体→個→ペア→トリオ→グループ】 動き作り・仲間との交流・主運動につながる運動にしよう。 ・場の設定 	4 時間目に「滑らかな回り」(技①)を学習し, 5 時間目(本時)と6 時間目で評価する。	学習課題に対して活動の見通しをもたせるために, キーワードを基に確認する。
	2 前時の復習をする。(発表やワークシート) 3 本時の学習課題を確認し, ワークシートへ記入する。【個】 ねらい: 学習した技から, 構成に適した技を見付けよう。		

展 開	<p>4 ペアでの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の「滑らかな回り」について評価を行う。 ・基本的な技の「滑らかな回転」の練習を行い、お互いの出来映えについて、よい動きや気付きを伝え合う。【ペア】 <p>「技に求められている動きが途切れずに続けてできること」のポイントを確認しながら、ペアでの練習をすすめる。</p>		<p>基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 (観察)</p>
	<p>5 自己に適した技(できる技)の中から、構成に適した技の組み合わせを見付け、ワークシートにまとめる。 【個→ペア→グループ】</p> <p>「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付けよう。</p> <p>☆組み合わせのポイント 「滑らかな回り・回転」「合理的な動き」「開始姿勢と終末姿勢」 ☆学習形態:「個人」での構成→「ペア」での練習→「グループ」での観察</p>		<p>学習した技から、「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付けている。 (ワークシート)</p>
	<p>6 構成した技をペアで見せ合いながら練習する。</p> <p>発問:自分にできる技やできそうな技から、演技の構成に適した技を組み合わせるには、何を、どの順で行えばいいだろう。</p>		

展 開	<p>7 構成した技の分析をする。そのための観察の視点を明確に提示し、「よい点」「改善点」「気付き」等を伝え合う。【ペア・トリオ・グループ】</p> <p>①既習事項を基に、構成のポイントを見付けているか。</p> <p>②構成した根拠が明確であるかどうか。</p> <p>③ペア・トリオでの活動を通して、自らが見付けた構成の「良い点」「改善点」を見付けているか。</p> <p>・グループ内のメンバーの演技について、『技に適した構成であるかどうか』について「良い点」「改善点」を伝え合おう。その際、「なぜ良いのか」「なぜ改善が必要なのか」について既習事項を基に伝え合うことができるように、ワークシートや映像を根拠に指摘し合おう。</p>	<p>【努力を要する状況にある生徒への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できる技」「できそうな技」からいくつかの技を選択させ、それらの技の組み合わせ方や「構成」について助言する。 ・2種類以上の技が連続してできるように支援を行うとともに、それらの技の「開始・終末姿勢」を意識させ、その流れをワークシートに記入させる。 	
	<p>8 本時のまとめをする</p> <p>(1) 片付けをする。【グループ】</p> <p>分担した役割で、協力して片付けよう。</p> <p>(2) 学習課題(本時のねらい)に対して、今日の実践がどうであったかを振り返り、振り返りシートに記入し、代表生徒が発表をする。【個→全体】</p> <p>構成に適した技を見付けるための「根拠」「理由」「具体例」をあげて説明してみよう。</p> <p>(3) 発表された内容をもとに、本時のまとめを行う。</p> <p>9 あいさつ【全体】</p>		